

名古屋城検定 過去問題 解答 初級

Q1.

答え：①

<解説>

名古屋城検定・初級試験では、公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』を見ながら解答することができます。その分、問題が難しくなっていますので、公式テキストをよく読み込み、どこに何が記載されているか把握することが大切です。この問題は、名古屋城の「縄張」に関する問題です。公式テキスト 17 ページの「名古屋城石垣丁場割格式図」に、本丸に関する外様大名 20 家の担当場所が記されていますので、答えが黒田長政であることが分かります。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P17「名古屋城石垣丁場割格式図」

Q2.

答え：③

<解説>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』の 64 ページ、本文の後ろから 6 行目に「三之丸にあった五つの門は、いまでも清水門をのぞいて門の跡をしのばせる石垣を道路の左右に見ることができます」と答えが記されています。なお、公式テキスト 65 ページの「名古屋城江戸末期の図」を見れば、名古屋城三之丸の五つの城門とは、東から東門、清水門、本町門、中下門、御園門であることが分かります。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P64 の本文

Q3.

答え：①

<解説>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』58 ページには、名古屋城本丸御殿の障壁画を描いた絵師集団・狩野派について紹介されています。本丸御殿の障壁画は、すべて狩野派の絵師

によって描かれました。狩野派は、日本画史上最大の画派で、当時、江戸幕府の御用絵師を務めていました。中でも最も格式の高い上洛殿の障壁画は、天才絵師と呼ばれた狩野探幽らによって描かれたとされています。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P58の本文

Q4.

答え：③

<解説>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』の80ページでは、「離宮時代」の名古屋城について書かれています。本文の10行目に「旧江戸城の蓮池門を移して、離宮正門とされました」と書かれていますので、答えは③になります。名古屋城は明治になると、まず陸軍省が管理し、次に宮内省が管理し、名古屋城は皇室が宿泊される「名古屋離宮」となりました。名古屋離宮時代には、天皇や皇后が五十余度、名古屋城を訪れています。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P80の本文

Q5.

答え：③

<解説>

名古屋城検定・初級試験では、公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』から70%以上出題されますが、残りの問題は、時事問題や名古屋城のイベントなど、公式テキスト以外から出題されます。この問題は、その一つです。尾張藩藩主の菩提寺に関しては公式テキストの83ページに書かれていますが、「現在の墓碑」については書かれていません。歴代藩主の中で最も人気の高い徳川宗春について、より深く知っているかどうか、問われた問題です。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P83の本文